

マニュアル等の内容

(ア) 推計マニュアルについての感想

平成9年度は「分かりにくい」及び「非常に分かりにくい」とした回答が全体の21%を占めていたが、平成10年度は13%であり、マニュアルの印象は若干向上した。規模や業種による大きな違いは見られなかった。

また、推計マニュアルの改善が必要な部分は、表3-10に示してある通り「算定の手順及び算定方法の解説」の回答が多かった。しかし、この部分は改善された部分としても回答されている。平成10年度、平成9年度の事業者からの質問をとりまとめて新規に配布したQ&A集は、有用であったことが分かった。

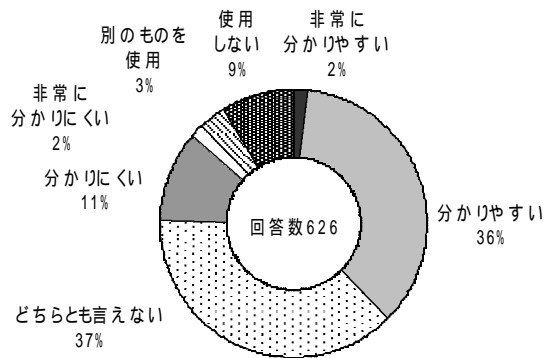


図3-28 推計マニュアルの分かりやすさ

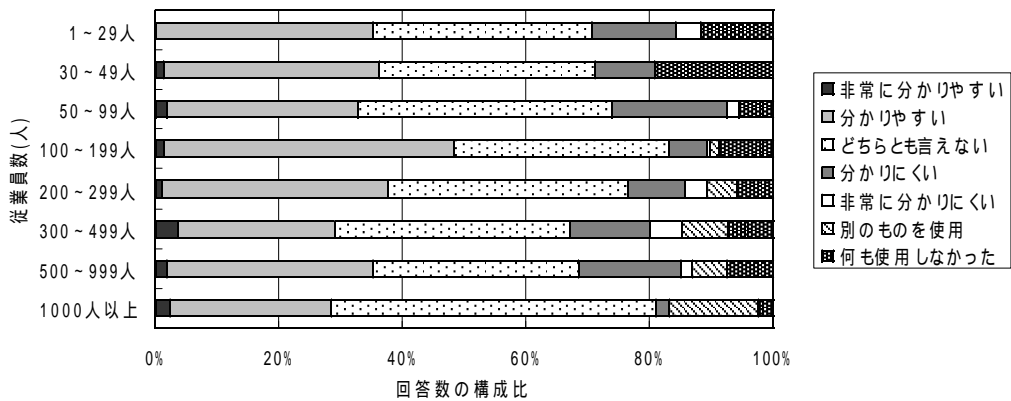


図3-29 推計マニュアルの分かりやすさ(規模別)

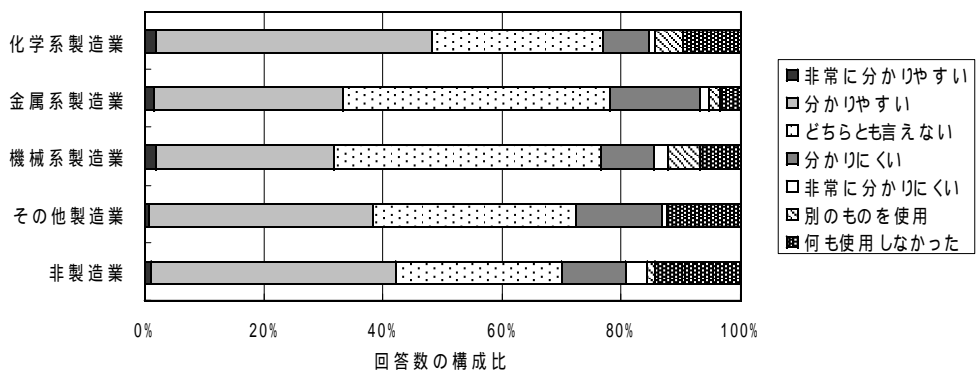


図3-30 推計マニュアルの分かりやすさ(業種別)

表3-10 推計マニュアルの改善等が必要な部分

コード	項目	回答数
A1	報告対象有害化学物質及び対象事業所等	5
A2	報告に必要な情報	4
B1	排出・移動量算定の手順及び算定方法の解説	12
B2	各排出ポイントごとの排出・移動量の算定方法の例	6
B3	中小事業所での業種(工程)別の排出・移動量算定の事例	3
C01	本マニュアルで使用している用語の定義	3
C02	報告洋式1, 2A及び2Bの記入例	1
C04	別表1 業種別の主な使用薬剤・原料等	2
C05	別表2 業種別の主な使用薬剤・原料等に含まれる対象化学物質	3
C06	別表3-1 対象化学物質	6
C07	別表3-2 物質	5
C08	別表3-3 石油系燃料及び潤滑油中の対象科学物質	1
C10	別表5 PRTR対象化学物質の物性表	2
C11	別表6 主要対象化学物質の大気への排出係数	5
C12	別表7 代表的な排ガス処理施設の除去率と分解無害化率の推算値	2
C13	別表8 代表的な排水処理施設の除去率と分解無害化率の推算値	3
C14	別表9 廃棄物処理施設からの排ガス中ダイオキシン類濃度の仮推算値	1
C15	資料1 廃棄物処理施設排ガスのダイオキシン類のTEQ濃度と他の指標との相関	1
C16	資料2 廃棄物処理施設排ガスのダイオキシン類TEQ濃度推算のための簡易測定方法	1
D	PRTRパイロット事業Q&A集 <新>	2

< 推計マニュアルの改善が必要な理由 >

B1： 排出・移動量算定の手順及び算定方法の解説

- ・事例が少なく、単純な事例のみである。業種別のより詳細なものが必要である(2件)
- ・土壌への排出量算定例、水域への排出係数の例がない。(1件)
- ・Q&Aを見ないと分からない事柄がある。(1件)
- ・物質収支と実測値の判断がしにくいものがある。(1件)
- ・清缶剤等の処理工程において、処理後の物質変化が分かりにくい。(1件)

B2： 各排出ポイントごとの排出・移動量の算定方法の例

- ・推計式のフォーマットは統一した方が良い。(1件)
- ・大気放出条件が異なるため分かりにくい。(1件)
- ・より具体的な例がある方が良い。(1件)
- ・横置き tanks の排出量の算出例も欲しい。(1件)

C06： 別表3-1対象化学物質一覧表

- ・CAS No順も必要と考えられる。(1件)
- ・似たような物質名が多く迷う(1件)
- ・「フッ化水素(フッ化水素酸を除く)」の注意書きが必要である。(1件)
- ・物質群の内容が具体的に分かりづらい。(1件)
- ・塩化水素に「塩酸を除く」の表現が必要である。(1件)

表3-11 平成 9年度の推計マニュアルから改善された部分

コード	項 目	回 答 数
A1	報告対象有害化学物質及び対象事業所等	3
A2	報告に必要な情報	3
B1	排出・移動量算定の手順及び算定方法の解説	5
B2	各排出ポイントごとの排出・移動量の算定方法の例	2
B3	中小事業所での業種(工程)別の排出・移動量算定の事例	3
C01	本マニュアルで使用している用語の定義	1
C02	報告様式 1, 2A及び 2Bの記入例	6
C04	別表1 業種別の主な使用薬剤・原料等	1
C06	別表3-1 対象化学物質	5
C07	別表3-2 物質	9
C08	別表3-3 石油系燃料及び潤滑油中の対象科学物質	1
C11	別表6 主要対象化学物質の大気への排出係数	1
C16	資料2 廃棄物処理施設排ガスのダイオキシン類TEQ濃度推算のための簡易測定方法	1
D	PRTRパイロット事業Q&A集 <新>	19

< 推計マニュアルが改善されたと思う理由 >

D： PRTRパイロット事業Q&A集

・具体的な問題点が記載されており、分かりやすかった。(5件)

・事例が多く参考になった。(2件)

・疑問点が明確になった。(1件)

C07： 別表3-2物質群構成化学物質

化学物質が具体的に例示しており、調べやすかった。(7件)

C02： 報告様式1, 2A, 2Bの記入例

・ダイオキシンを別扱いとして分かりやすくなった。(2件)

・提出の要否の選択肢をもつたことで分かりやすくなった(2件)

・転記方法が分かりやすかった。(1件)

(1) 記入要領についての感想

平成9年度と平成10年度では、記入要領の分かりやすさについての感想に大きな差は見られなかった。

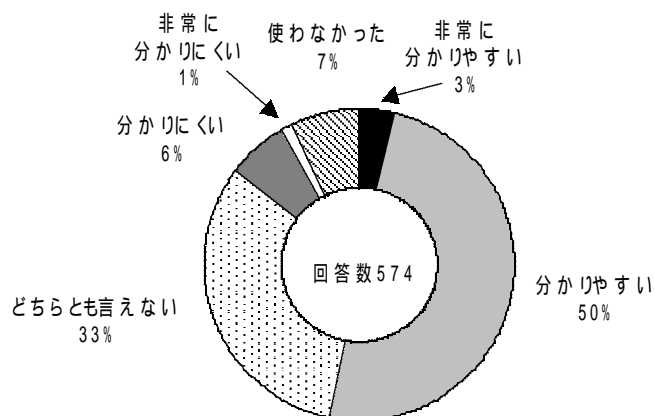


図3-31 記入要領の分かりやすさ

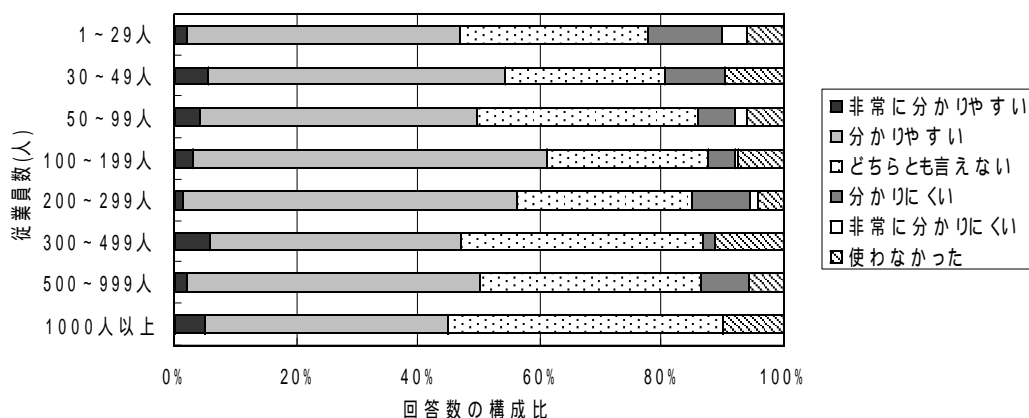


図3-32 記入要領の分かりやすさ(規模別)

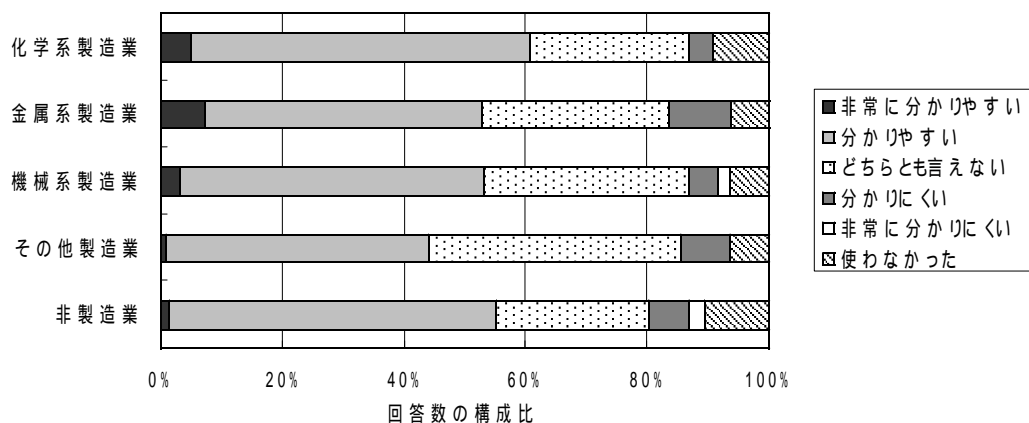


図3-33 記入要領の分かりやすさ(業種別)

表3-12 記入要領の改善等が必要な部分

コード	項目	回答数
E1	様式 1の記入要領	8
E2	様式 2(2A及び 2B)の記入要領	8
F1	作業シート1(取扱品等組成表)の記入要領	5
F2	作業シート2(取扱量集計表)の記入要領	6
F3	作業シート3(排出・移動量算定表)の記入要領	8
F4	作業シート3から様式 2Aへの転記	3
F5	作業シート4(ダイオキシン類の大気への排出量算定表)の記入要領	7
G1	PRTRパイロット事業のための成分組成質問表	1
H2	表 - 2 対象化学物質一覧(各グループ毎に五十音順)	2
H3	表 - 2の付表(その1) 対象化学物質及び別名の五十音順索引	2
H4	表 - 2の付表(その2) 対象化学物質のCAS No.順索引 <新>	2
H5	表 - 2の付表(その3) カテゴリー別の対象化学物質 <新>	2

< 記入要領の改善が必要である理由 >

E1： 様式 1の記入要領

- ・様式と説明が裏表一枚にあるため使いにくい。(3件)
- ・提出書類と説明資料の区別が解りにくいため、「提出用」「提出不要」と明記してほしい。(1件)

E2： 様式2の記入要領

- ・様式 2A」は複数枚数必要になるので、最初から複数枚添付してほしい。(1件)
- ・「廃棄物としての移動」の記入が複数箇所ある場合も考慮してほしい。(2件)
- ・平成 9年度と同じように記入例をつけてほしい。(1件)
- ・「生たる算定方法」の解説は推計マニュアルに載せ、具体例のどれに当たるのか示してほしい。(2件)
- ・様式と説明が裏表一枚にあるため使いにくい。A 3サイズにしてほしい。(1件)

F3： 作業シート3(排出・移動量算定表)の記入要領

- ・内容をより具体的にしてほしい。(1件)
- ・内容は理解できるが、細かすぎて使いにくい。(1件)
- ・項目の相互の関連が分かりにくい。(1件)
- ・記載例が分かりにくい。(1件)

支援対策

(ア) 記入説明会への参加

平成9年度の記入説明会への参加率は、無回答を集計対象としなかったため、全体の71%であった。平成10年度は無回答の事業所は「参加していない」とみなして参加率を算出したところ51%であった。また、継続事業所のみ集計した結果では、28%という結果であり新規の調査対象事業所の参加が多いことが確認された。

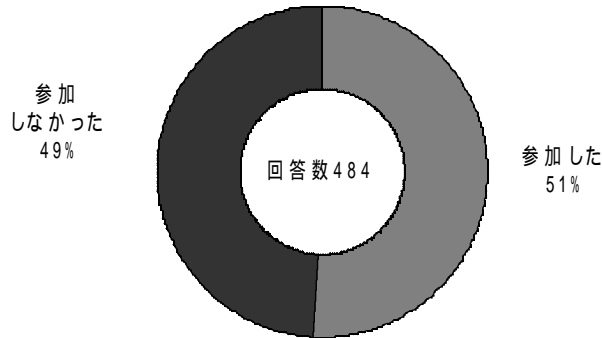


図3-34 実施機関が主催した記入説明会への参加

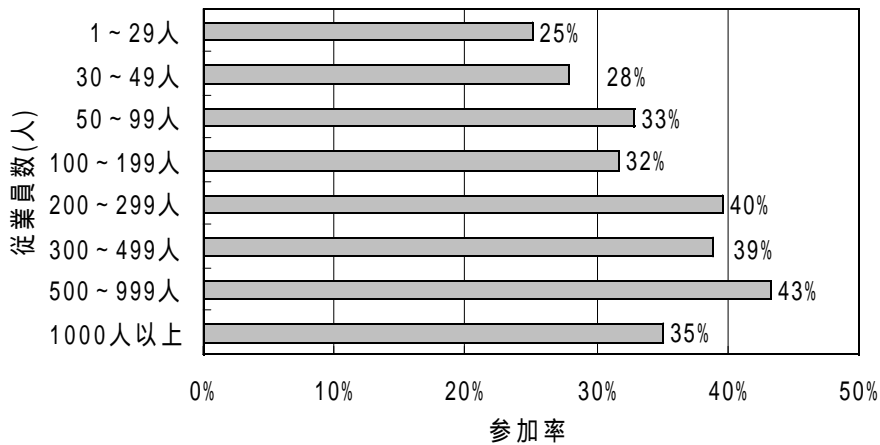


図3-35 実施機関が主催した記入説明会への参加(規模別)

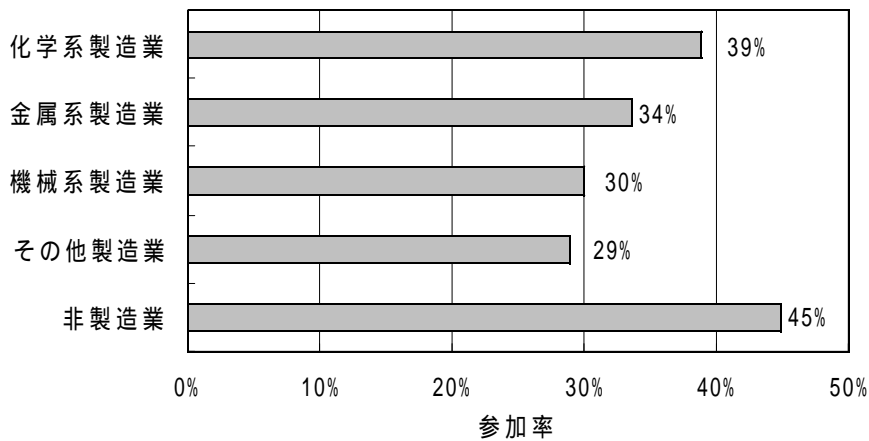


図3-36 実施機関が主催した記入説明会への参加(業種別)

(イ) 記入説明会の印象

平成9年度の結果では、「(非常に)も含む)良い(31%)」「普通(59%)」「(非常に)も含む)良くない(11%)」であった。平成10年度も項目の順番は変わらないが、「普通(73%)」の割合が大きく増加した。

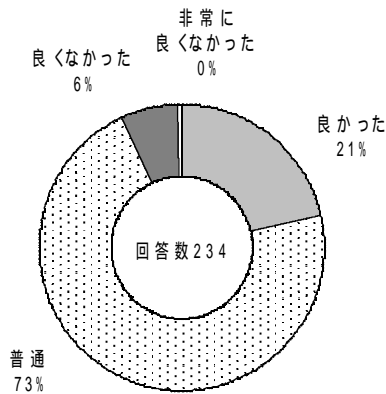


図3-37 記入説明会の印象

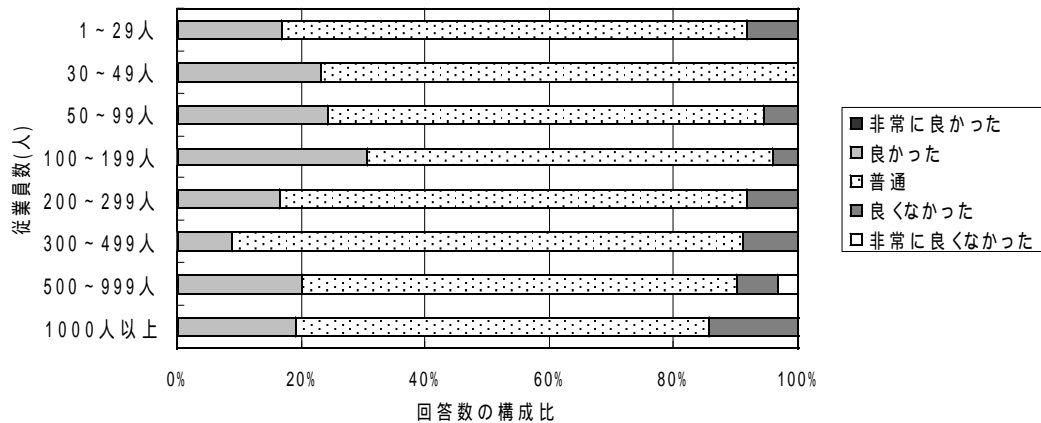


図3-38 記入説明会の印象(規模別)

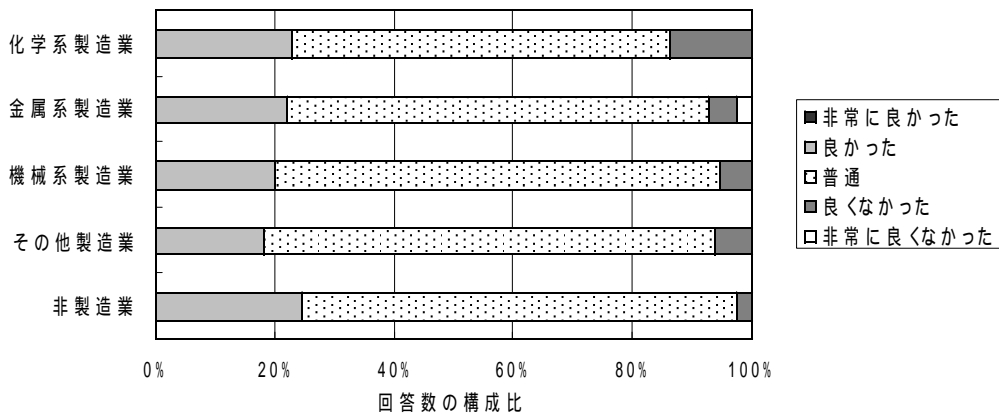


図3-39 記入説明会の印象(業種別)

(ウ) 技術的な疑問点の問い合わせ先

平成9年度の結果で回答が多かったものは「実施機関(県・市)(30%)」「原料等のメーカー(22%)」「原料等の販売会社(27%)」であった。平成10年度も大きな変化はないが、「実施機関」の割合が減少し、「原料等メーカー」と「原料等の販売会社」の割合が若干増加した。これは、PRTR制度自体への理解が進んできたことを示唆している。「その他」には「本社、他事業所(15件)」「産業廃棄物業者(3件)」の回答があった。

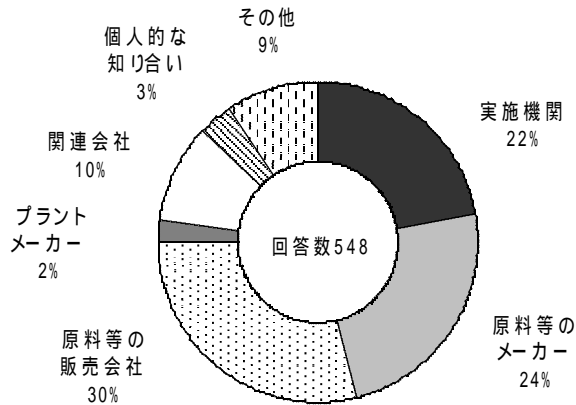


図3-40 技術的な疑問点の問い合わせ先

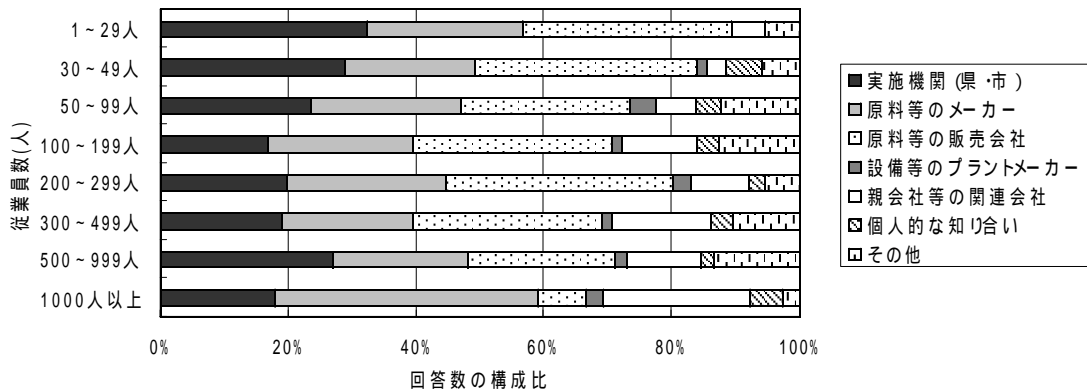


図3-41 技術的な疑問点の問い合わせ先(規模別)

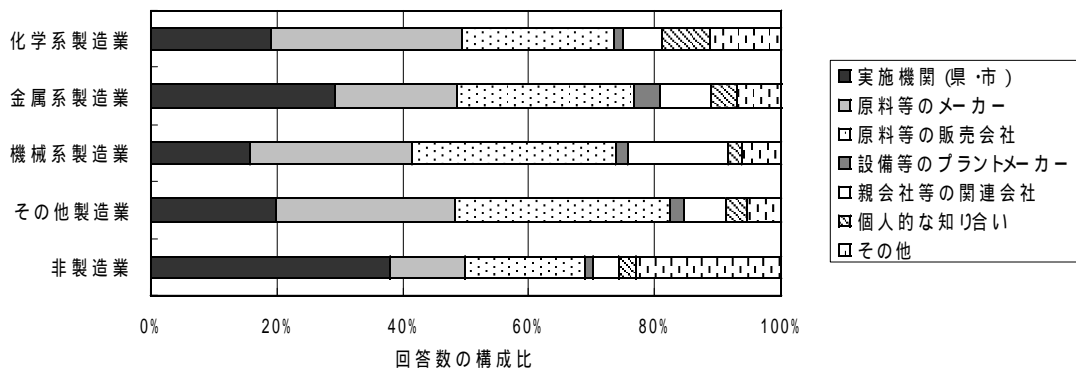


図3-42 技術的な疑問点の問い合わせ先(業種別)

(I) 実施機関への問い合わせによる問題解決の状況

平成9年度の結果では、「全く解決しない」という回答が2%であったが、平成10年度はその回答がなかった。その他は、ほとんど同じ結果であった。解決できなかった問題点は「塗料の成分(2件)」「非意図的物質の解釈(1件)」「金属材料に含まれる物質の取扱い(1件)」であった。

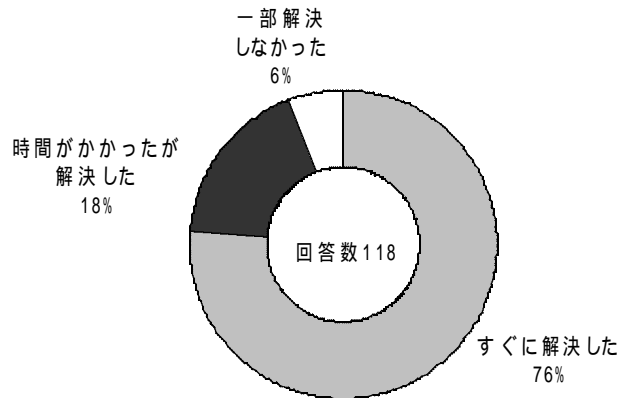


図3-43 実施機関への問い合わせによる問題解決の状況

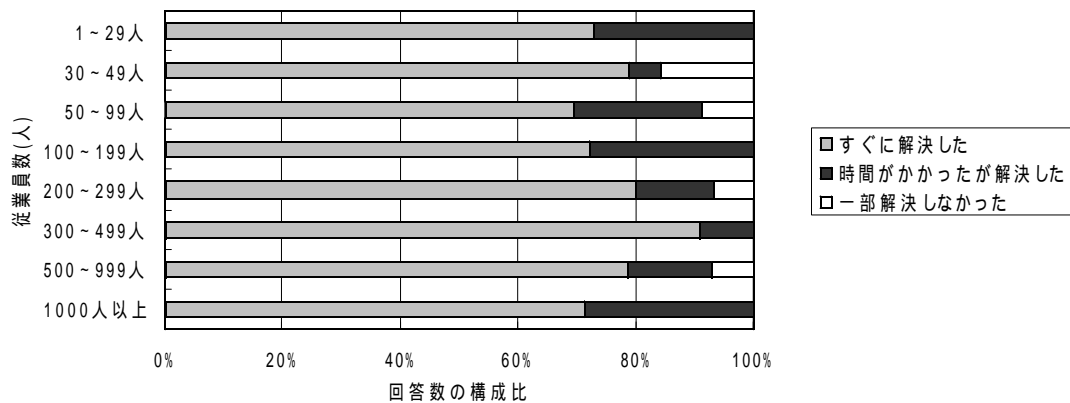


図3-44 実施機関への問い合わせによる問題解決の状況(規模別)

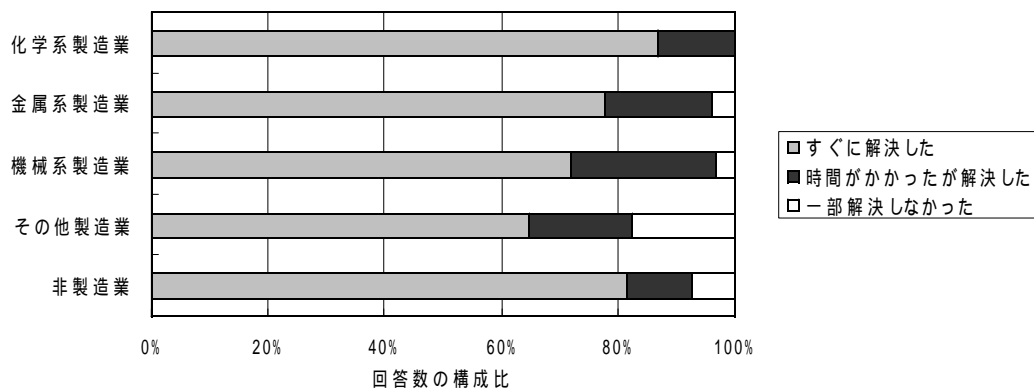


図3-45 実施機関への問い合わせによる問題解決の状況(業種別)

(オ) 取扱品の成分情報の入手先

平成9年度の結果と大きな差は見られず、「MSDSの活用」が多かった。平成10年度は「インターネット」の項目を新規に設けたところ、全体の2%が回答しており、1000人以上の事業所が中心であった。「その他」には「本社や他の事業所」などが回答された。

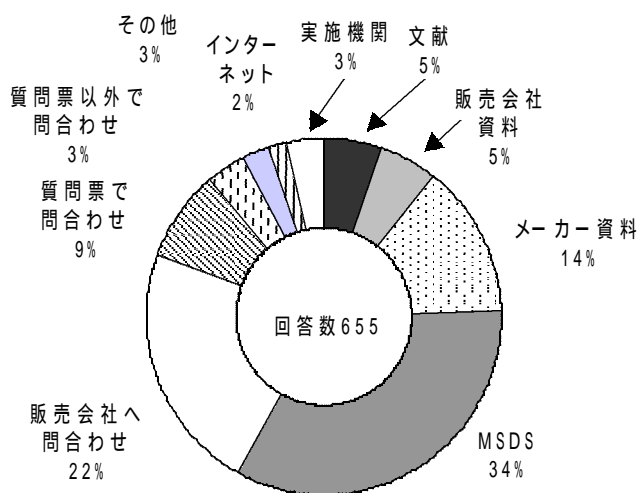


図3-46 取扱品の成分情報の入手先